

(平成 29 年 7 月試験研究業務月報)

試験研究課題：底曳網漁業の振興に関する調査

研 究

## <sup>けた</sup>桁びき網※によるヤナギムシガレイの漁期前調査

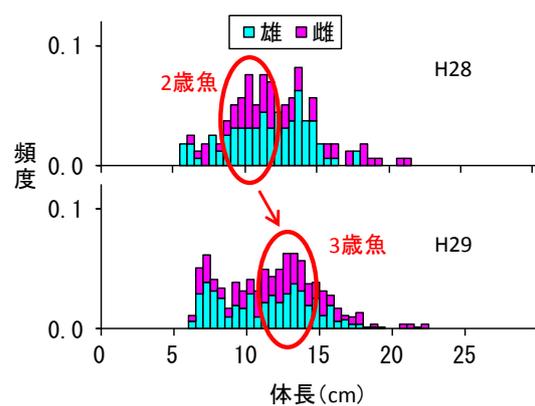
9月1日に解禁となる底びき網秋漁で水揚げされるヤナギムシガレイ(ささがれい)は、高級干物などに利用される重要な資源ですが、近年、漁獲量が減ってきています。海洋センターではヤナギムシガレイの資源管理を推進するために、海洋調査船「平安丸」の桁びき網操業による漁期前の資源調査を行っています。7月に実施した調査では、雄 249 尾、雌 206 尾のヤナギムシガレイが採集され、昨年の調査で多かった 2 歳魚が成長して 3 歳魚となり、高い割合で生息していることが分かりました。

3 歳魚以下のカレイは未成熟であり、これらの小型カレイを保護することが重要なことから、今後、調査結果に基づく資源量推定等の解析を行い、資源を有効に活用できるよう、漁業者に情報提供していきます。

※桁びき網：鉄枠(桁)に漁網を取り付けた漁具の一種。平安丸で使う桁は幅約 8.5m で網の高さは 1.7m、長さは約 30m に及ぶ。これを海底まで降ろし、一定速度で曳くことにより海底近くにいる生物を漁獲する。



ヤナギムシガレイの体長測定



測定結果に基づく体長組成